

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の1年目)

1. 研究課題

近代日本の宗教と文化

Modern Japan's Religion and Culture

2. 研究代表者氏名

高木 博志

Takagi Hiroshi

3. 研究期間

2022年4月-2025年3月(1年目)

4. 研究目的

近代日本の宗教と文化を考えたい。本研究で扱う宗教とは、仏教、キリスト教、国家神道、教派神道（金光教・黒住教・天理教・大本教）、民俗世界の信仰などである。そして文化とは、美術・工芸、音楽、文学、映画・芸能などにとどまらず、それらが政治、社会、教育、生活とも交差する、広義の「文化」とする。その上で、宗教と文化の問題を深めたい。

たとえば「賊軍」士族の賛美歌、国家神道と教育儀礼や民俗文化、白樺派や柳宗悦やブレイクとキリスト教、京都画壇と本願寺など、課題は豊富である。

また市井の庶民の信仰に迫るためにも、民衆史の方法や、宗教における史料論という課題を問いたい。最後に近代天皇制にも「宗教と文化」から迫りたい。

I wish to reflect on modern Japan's religion and culture. *Religion* here refers to Buddhism, Christianity, state Shintoism, sect Shintoism (Konkōkyō, Kurozumikyō, Tenrikyō, and Ōmotokyō), and the world of popular beliefs. *Culture* refers not merely to the arts, crafts, music, literature, film, and entertainment, but to their engagement with politics, society, education, and life. This is culture in the broadest sense. And I hope to clarify the problem of religion and culture. The issues here are many and diverse: hymns by samurai on the losing side in the civil war; state Shintoism and educational ceremonies and folk culture; the Shirakaba school, Yanagi Sōetsu, Blake and Christianity; and the world of Kyoto painting and Honganji *inter alia*. In order to approach the beliefs of the people in the broad sense, I adopt the methods of people's (social) history and of religious history. Finally, I plan to use religion and culture to explain the modern emperor system.

5. 本年度の研究実施状況

2022年度は10回の研究班を開催し、報告は、歴史学・映画史・宗教史・音楽史・美術工芸

史などの学際的な内容であった。そのうち 9 月には今尾文昭氏の案内で百舌鳥古墳群のフィールドワークをし世界遺産がかかえる問題や歴史的な変遷を考えた。11 月には京都工芸繊維大学美術工芸資料館「デザインの夜明け：京都高等工芸学校初期 10 年―」展、2023 年 3 月には向日市文化資料館「寿岳文章と向日庵本の世界」を観覧し、研究会をもった。2023 年 2 月 11 日には、「近現代天皇制を考える学術集会」をもち研究者・市民、110 名の参加者を得た。初年度であるために「近代日本と宗教と文化」のテーマに関わる共同研究の可能性を多様な研究報告のなかで探っている。拠点経費は、すべてが招へい旅費で使っており、不足分は、科研費や分野経費で補っている。前回の共同研究「近代京都と文化」の研究成果として、『人文学報』120 号を刊行したので、それをもとに研究班において批判的な検討を行った。

6. 本年度の研究実施内容

2022-05-28 近代日本と宗教と文化 共同研究〈近代日本の宗教と文化〉について 附、金光教と遊廓 発表者 高木博志 明治 40 年から昭和 10 年までの金光教に関わる上演、上映について事例報告 発表者 児山陽子 金光図書館

2022-06-25 近代日本と宗教と文化 尋常小学唱歌楽曲委員楠美恩三郎：東北土族と洋楽受容 発表者 北原かな子 青森中央学院大学

2022-07-30 近代日本と宗教と文化 黒川真頼・小杉楢邨と「日本美術史」 発表者 佐藤岳流 教育学研究科 井伊家所蔵品の近代：公と私の狭間で 発表者 久坂明日香 文学研究科

2022-09-03 近代日本と宗教と文化 百舌鳥古墳群と世界遺産を考えるフィールドワーク：大山古墳・いたすけ古墳ほか 発表者 今尾文昭 関西大学

2022-10-29 近代日本と宗教と文化「明治初期琉球における真宗一布教活動と「第三次法難事件」をめぐる」 発表者 福島栄寿 大谷大学

2022-11-13 近代日本と宗教と文化 デザインの夜明け：京都高等工芸学校初期 10 年―」展、展示解説 発表者 並木誠士 京都工芸繊維大学

2022-11-26 近代日本と宗教と文化 五条坂を掘る：近現代京焼登り窯の発掘調査と近現代文書の掘り起こしから 発表者 木立雅朗 立命館大学

2022-12-24 近代日本と宗教と文化 内山永久寺の虚像と実像 発表者 幡鎌一弘 天理大学

2023-02-11 近現代天皇制を考える学術集会―「建国記念の日」に問う 「建国記念」の近現代史 発表者 高木博志 天皇の代替わりと映画 発表者 紙屋牧子 玉川大学 「帝国日本」の学校儀式 発表者 樋浦郷子 国立歴史民俗博物館研究部 昭和戦前期の君民間コミュニケーション：地方行幸時の「御下問」行為に注目して 発表者 佐々木政文 京都先端科学大学 「不敬」のプリズム―大川周明と〈紀元二千六百年〉 発表者 福家崇洋 ヨーロッパ史における君主政と共和政：王のいない共和政を展望するために 発表者 小山哲 文学研究科

2023-03-18 近代日本と宗教と文化 特別展「寿岳文章と向日庵本の世界」解説 発表者 玉

城玲子 向日市文化資料館 土田眞紀『柳宗悦と美』：語り手の位置 発表者 中島俊郎 甲南大学 柳宗悦の「民芸」と朝鮮・木喰仏・京都・沖縄：土田眞紀『柳宗悦と美』とのかかわりで 発表者 高木博志

7. 共同研究会に関連した公表実績

『人文学報』120号・特集号「近代京都と文化」を刊行し、7本の研究、3本の史料紹介を掲載した。2023年2月11日には、人文研アカデミー「近現代天皇制を考える学術集会」をもち研究者・市民、110名の参加者を得て活発な討論を行った。

8. 研究班員

所内

高木博志、福家崇洋、金智慧、林潔

学内

谷川穰(文学研究科)、田中智子(教育学研究科)、木下千花(人間環境学研究科)、駒込武(教育学研究科)

学外

福島栄寿(大谷大学文学部歴史学科)、青江智洋(京都府立丹後郷土資料館)、齊藤紅葉(国際日本文化研究センター)、並木誠士(京都工芸繊維大学美術工芸資料館)、幡鎌一弘(天理大学文学部)、中川理(神戸女子大学)、土田眞紀(同志社大学文学部)、今尾文昭(関西大学文学部)、玉城玲子(向日市文化資料館)、北野裕子(龍谷大学経済学部)、松川綾子(奈良県立美術館)、羽賀祥二(名古屋大学)、本康宏史(金沢星稜大学 経済学部)、北原かな子(青森中央学院大学看護学部)、樋浦郷子(国立歴史民俗博物館研究部)、冨田美香(国立映画アーカイブ)、ジョン・ブリーン John Breen(国際日本文化研究センター)、兒山真生(金光図書館)、兒山陽子(金光図書館)、國賀由美子(大谷大学文学部歴史学科)、木立雅朗(立命館大学文学部)

9. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
学内(法人内)	4	19	4		6	5	114	19		38	38
		(11)	(4)		(5)	(4)	(100)	(19)		(32)	(29)
国立大学	2	2					3				
公立大学											
私立大学	9	10					36				
		(4)					(14)				
大学共同利用機関法人	2	3	1				20	5			
		(2)					(12)				
独立行政法人等公的研究機関	4	4	1				20				
		(3)					(15)				
民間機関	1	2		1			14				
		(1)		(1)			(8)				
外国機関											
その他 ※											
計	22	40	6	1	6	5	207	24	0	38	38
		(19)	(5)	(1)	(5)	(4)	(140)	(24)	(0)	(39)	(31)
※「その他」の区分受入がある場合 具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員 無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要											

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)	15			
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名（必須）	掲載 論文数 （必須）	掲載 年月日 （必須）	論文名（必須）	発表者名 （必須）
1	『日本研究』 （高麗大学校グ ローバル日本 研究院）38号	1	R4.8	「坪内逍遙の史劇改良—『桐一葉』に おける<型>の破壊—」	金智慧
2	『歌舞伎：研究 と批評』67号	1	R4.11	「追善公演の史的展開とその意味」	金智慧
3	『BUNRON』 （ハイデルベル ク大学日本 学研究所）9号	1	R4.12	「名所の形成と名所イメージの構築 —『平家物語』の築島伝説を手掛かり に—」	金智慧
4	『日本學報』 （韓国日本学 会）134号	1	R5.2	「五代目尾上菊五郎と尾上家の家の 芸—新古演劇十種を手掛かりに—」	金智慧
5	『日本史研究』 717	1	R4.5	「世界遺産と陵墓古墳名称：大山古 墳(自治体が決めた文化財名称)の提 案」	高木博志
6	『宗教と社会』 28号	1	R4.6	「(書評論文) 石井公成(監修)・近藤 俊太郎・名和達宣(編)『近代の仏教 思想と日本主義』、オリオン・クラウ タウ(編)『村上专精と日本近代仏教』、 大谷栄一・大友昌子・永岡正己・長谷 川匡俊・林淳(編) 『吉田久一とその時代』」	谷川穰
7	『奈良史学』第 40号	1	R5.2	「近世朝廷の牛車と車役人に関する 基礎的考察」	村上紀夫
8	『奈良大学紀 要』第51号	1	R5.2	「『雀合戦』考」	村上紀夫
9	『奈良大学大 学院研究年報』 第28号	1	R5.3	「近世上賀茂神社社領の牛飼と朝廷」	村上紀夫
10	伊藤之雄編『維 新の政治変革	1	R4.4	「岩倉具視の新国家像と動向 - 慶応 三年から明治二年 - 」	齊藤紅葉

	と思想 - 一八六二～一八九五 - 』ミネルヴァ書房				
11	『人文学報』第119号	1	R4.6	「岩倉具視と「文化外交」 - 大蔵経、法隆寺の貝多羅葉写しのイギリスへの送付を通して」	齊藤紅葉
12	『人文学報』第120号	1	R5,2	「江馬務の〈歴史の可視像化〉論—京都画壇と風俗研究会の萃点を論点として」	青江智洋
13	『人文学報』第120号	1	R5,2	「浅井忠の美術教科書—洋画指導からデザイン指導へ」	並木誠士
14	『人文学報』第120号	1	R5,2	「「工藝」の岐路—高村豊周・今和次郎・柳宗悦」	土田眞紀
15	『人文学報』第120号	1	R5,2	「1930年代後半の和紙漉場調査と寿岳文章」	玉城玲子
16	『人文学報』第120号	1	R5,2	〈史料紹介〉「民芸同人・寿岳文章宛水谷良一書簡（向日庵所蔵）」	
17	『人文学報』第120号	1	R5,2	「明治初期の京都における公家地・所有物の変容—岩倉具視、杉孫七郎、榎村正直を中心に—」	齋藤紅葉
18	『人文学報』第120号	1	R5,2	〔資料紹介〕、「幕末明治巷談絵噺」—幕末・維新时期京阪地域の一「風景」—	齊藤紅葉・ 桑原優子・ 林潔・西脇 彩央
19	『世界』	1	R5,2	「神宮大麻を知っていますか。伊勢神宮と神社界」	ジョン・ブ リーン
20	『明治史講義：グローバル研究篇』瀧井一博編、筑摩書房	1	R4.6	「明治天皇の皇位継承儀礼とその遺産」	ジョン・ブ リーン
21	神辺靖光・米田俊彦編『明治前期中学校形成史』府県別編 V 南畿南海、	1	R4,8	「高知県の中学校形成史」	田中智子

	成文堂				
22	摂津市史編さん委員会『新修摂津市史』第二巻、摂津市	6	R5.3	「文明開化」「世紀転換期の文化と教育」「文化・医療と地域社会」「変容する社会と教育」「戦時下の宗教」「戦時体制下の教育」	田中智子
23	大谷大学日本史の会編『歴史の広場』第25号	1	R5.3	「明治初期琉球における「第三次真宗法難事件」の顛末とその意味―新出資料を手がかりとして―」、2023年3月	福島栄寿
24	『両丹地方史』	1	R5.3	「由良川流域の三階建養蚕農家建築―水害対策と文化的価値をめぐって―」	青江智洋
25	『京都府祭り・行事調査報告書』（京都府教育委員会）	1	R5.3	「子どもたちのための祭り・行事」	青江智洋
26	『舞鶴市吉原の伝統的建造物群調査報告書』	1	R5.3	「吉原の漁業と暮らし」	青江智洋
27	『洋学』29号	1	R4	「駐米公使吉田清成と留学生：1870年代-80年代の留学実態」	西脇彩央
28	『日本陶磁芸術教育学会誌』第1号	1	R5.3	「柳宗悦は「民藝」に何を見出したか―「民藝」におけるヒトとワザと自然」	土田真紀
29	細川孝・白須正編著『地域産業政策の新展開』文理閣（2023年3月）	1	R5.3	「京都市における伝統産業への取り組み」	北野裕子
30	『新修 摂津市史』第二巻	5	R5.3	「交通体系の整備」「明治期の産業経済」「大正期の産業と交通」「昭和恐慌前後の産業と交通」「工場進出ブーム」	北野裕子
31	木越隆三編『加賀藩研究を切	1	R4.11	「壮猶館壮猶館における職人と軍事技術―『一東視窮録』の「兵器」項目	本康宏史

	り拓くⅡ』桂書房			をめぐってー」	
32	『近代化遺産シンポジウム金沢2022[資料集]』（令和4年度文化庁Innovato MUSEUM事業報告書）金沢大学資料館	1	R4.11	「金沢城・兼六園の明治維新」	本康宏史
33	北國新聞出版局編『金石生まれの大実業家安宅弥吉に学ぶ』北國新聞出版局	1	R4.12	「企業家安宅弥吉の光と影」	本康宏史
34	『文学界』76－9	1	R4.9	「イメージとしての妊娠：ジョン・フォードにおける僻地分娩の主題」	木下千花

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
1	『明治歌舞伎史論』	金 智慧	R5.3	思文閣出版
2	『人文学報』120号・特集号「近代京都と文化」	高木博志	R5.2	人文科学研究所
3	Beyond Zen: D.T.Suzuki and the Modern Transformation of Buddhism	John Breen 他編	2022	Hawaii UP
4	『論点・日本史学』	谷川 穰他編	R4.8	ミネルヴァ書房
5	『文献史学と民俗学――地誌・随筆・王権――』	村上紀夫	R4,10	風響社(関西学院大学現代民俗学・文化人類学リブレット)

6	『海軍飛行予科練習生 佐野元 空は星の満艦飾なり』	田中智子監修	R5.2	地域資源を掘り起こす会（亀岡市）
7	『近代日本の国家と浄土真宗一戦争・ナショナリズム・ジェンダー』	福島栄寿	R5.1	法蔵館
8	『柳宗悦と美』	土田真紀	R4.5	玉川大学出版会
9	『奈良史料叢書八』	大宮守友・幡鎌一弘監修	R5.3	奈良県立図書情報館
10	『思想史講義 戦前昭和篇』	福家崇洋・山口輝臣編	R4,12	筑摩書房
11	『思想史講義 大正篇』	福家崇洋・山口輝臣編	R4,8	筑摩書房
12	『思想史講義 明治篇 1』	福家崇洋・山口輝臣編	R4,10	筑摩書房
13	『思想史講義 明治篇 2』	福家崇洋・山口輝臣編	R5,2	筑摩書房

12. 本年度博士学位を取得した学生の数

	人数
博士学位を取得した学生の数	0

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由 なし

14. 次年度の研究実施計画

次年度も 10 回の研究班と 1 回のフィールドワークを企画している。人文研アカデミーの企画として、11 月 5 日にレクチャー上映会「大正期の映画と民衆宗教：活弁士による『性は善』上映を通して」（富田美香、児山陽子、夫婦活弁士むっちゃん・かっちゃん、楽土野原直子）を、京都大学百周年記念館・百周年記念ホールで開催する。これは金光教の信者である尾上松之助・マキノ省三・中村鴈治郎などの映画関係者・芸能者が、民衆宗教の布教のあり方も模索したものであった。映画や芝居の教義や御蔭譚は、文字も読めないサバルタン・民衆に届くものであったという。また昨年に引き続き 2024 年 2 月 11 日に「近現代天皇制を考える学術集会」の企画もする。これは近現代天皇制の基礎的な研究の必要を従来より考えており、シンポジウムを重ねることにより、議論を深めたい。また共同研究が 3 年の期間中の 2 年目に入ったことを考え、研究班員に共同研究班のテーマに沿った報告を積み重ね

たい。2025 年には、『近代日本の宗教と文化』（思文閣出版）を刊行するため、編集者も入れた研究会の運営を行う。

15. 次年度の経費

		開催回数	国内出張旅費（延べ人）	支出予定額
国内旅費	研究会参加費	10回	15人	400000
	一般旅費			
海外旅費	渡航旅費			
	招へい旅費			
謝金（講演謝金、研究協力者金、その他の謝金）				
消耗品等経費				
その他				
合計				400000

16. 研究成果公表計画および今後の展開等

2023 年 11 月 5 日にレクチャー上映会「大正期の映画と民衆宗教：活弁士による『性は善』上映を通して」（富田美香、児山陽子、夫婦活弁士むっちゃん・かっちゃん、楽士野原直子）、2024 年 2 月 11 日に「近現代天皇制を考える学術集会」の開催。なお前回の共同研究班の研究報告書として、21 篇の研究論文を収め 500 頁を越える、高木博志編『近代京都と文化―「伝統」の再構築』（思文閣出版、2023 年）を夏には刊行する。